

ISBDの現在・過去・未来
—ISBD統合版を中心に—

情報組織化研究グループ
2012年5月月例研究会(2012.5.26)

松井 純子
(大阪芸術大学)

2012/5/31 1

ISBDの現在・過去・未来
—ISBD統合版を中心に—

発表概要: 2011年7月、ISBD(国際標準書誌記述)統合版(consolidated edition)がIFLAから刊行された。1971年に最初のISBD(M)が公表されて以来、ISBDは書誌記述作成の国際基準として、世界各国の目録規則やそれにもとづく書誌情報作成の現場に強い影響を与えてきた。にもかかわらず、ISBD統合版については、図書館界で話題として取り上げられることはあまりないようである。ここでは、ISBD統合版に至るISBD改訂の一連の流れを振り返りつつ、ISBD統合版の概要を紹介する。さらにFRBRの登場により、ISBDの意義や果たすべき役割は変わったのか変わらないのか、なども検討したい。

2012/5/31 2

ISBDの現在・過去・未来
—ISBD統合版を中心に—

0. はじめに

◆ISBD(International Standard Bibliographic Description)(国際標準書誌記述)とは

- ・IFLA目録分科会(Cataloguing Section)が策定・維持・管理する、書誌記述に関する国際基準
- ・目録法の分野では、標目に関する国際基準であるパリ原則(IFLA,1961)とともに、1970年代初頭から40年間にわたって、記述の国際基準として、各国の目録規則や、国立図書館などの全国書誌作成機関に影響を与え続けてきた。

2012/5/31 3

0. はじめに(つづき)

◆図書館目録に関する近年の主なできごと

- ・1998年 FRBR(Functional Requirements for Bibliographic Records: 書誌レコードの機能要件)の刊行
以下、FRAD(Functional Requirements for Authority Data: 典拠データの機能要件, 2009年)の刊行
FRSAD(Functional Requirements for Subject Authority Data: 主題典拠データの機能要件)も策定中
- ・2009年 ICP(Statement of International Cataloguing Principles: 国際目録原則覚書)
※パリ原則が半世紀ぶりに改訂される。
- ・2010年 RDA(Resource Description and Access)刊行
※AACR2を改訂
- ・2011年 ISBD統合版(以下、「統合版」)の刊行

2012/5/31 4

0. はじめに(つづき)

- これまでのISBDの影響の大きさから考えて、「統合版」の刊行は館界の関心を集めていいように思うが、実際はあまり話題になっていない(ように見える)。
※例えば、「統合版」について取り上げた論文は1本だけ??
古川肇「ISBD統合版における電子資料に関する規定」『資料組織化研究-e』No.61, 2011.115.3.
- しかし、「国際目録原則覚書」の「5. 書誌記述」に
記述データは、国際的に合意された基準に基づくものとする。
とあり、この「国際的に合意された基準」とは、脚注によると「ISBD」であると書かれている。
- 今後もISBDの重要性は維持されるのか!?

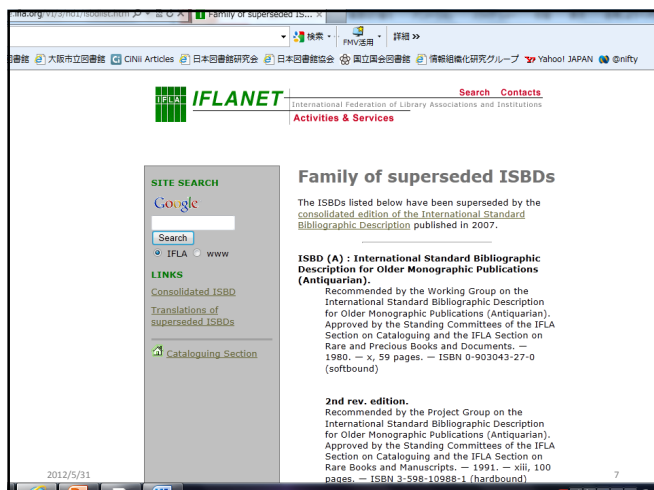
2012/5/31 5

ISBDの現在・過去・未来

1. ISBDの過去(歴史)(~1980年)

- ・1969年 IFLA目録委員会がコペンハーゲンでIMCE(International Meeting of Cataloguing Experts: 国際目録専門家会議)を開催。書誌記述の形式と内容の標準化について話し合う。
→標準書誌記述作成のためのワーキング・グループを設置。
- ・1971年 ISBD(M)(単行書用) 勧告案刊行
- ・1972年 ISBD(M)予備版
- ・1974年 ISBD(M)標準第1版
ISBD(S)(逐次刊行物)勧告案
- ・1977年 ISBD(NBM)(非図書資料)
ISBD(S)標準第1版
ISBD(CM)(地図資料)
ISBD(G)(総合)注解付テキスト
←JSCAACRからの申し入れ(1975年)により策定
- ・1978年 ISBD(M)標準第1版改訂版 ←ISBD(G)に対応させた
- ・1980年 ISBD(A)(古典籍), ISBD(PM)(楽譜)

2012/5/31 6



◆ISBDの目的と原則

- ①UBC (Universal Bibliographic Control: 世界書誌コントロール) 推進の手段
国際レベルでの書誌情報の流通・交換を可能にするため、書誌記述の標準化が不可欠
- ②書誌的記録作成における記述の基盤
記録すべきデータエレメントを定義し、その順序を定める
- ③言語の障壁をこえて、書誌的記録の識別・解釈を可能にする
区切り記号法の採用
- ④機械可読化の促進による国際的コミュニケーションの円滑化
- ⑤あらゆる資料種別に適用可能、目録の種類を問わない
- ⑥書誌記述作成における一貫性の確保
- ⑦図書館その他の情報コミュニティとの互換性の確保
- ⑧多様な図書館における記述のレベルの配慮

2012/5/31

8

2. ISBDの過去(歴史)(1977~1992年)

- 1977年 IFLAブリュッセル世界大会にて、目録分科会常任委員会は、すべてのISBDを5年間固定し、その後改訂を行うと決定
→ISBDレビュー委員会(Review Committee)を設置、1981年に改訂計画を策定
- 1987年 ISBD(M)改訂版
ISBD(CM)改訂版
ISBD(NBM)改訂版
- 1988年 ISBD(S)改訂版
- 1990年 ISBD(CF)(コンピュータファイル)勧告案
- 1991年 ISBD(A)改訂第2版
ISBD(PM)改訂第2版
- 1992年 ISBD(G)注解付テキスト 改訂版

第一世代
レビュー
プロジェクト

2012/5/31

9

3. ISBDの過去(歴史)(1992~2004年)

- ◆FRBRの登場とISBD への影響
- 1992年 IFLA目録分科会がFRBR研究グループを設置
→ISBD改訂作業の延期も決定
- 1997年 ISBD(CF)を改訂して、ISBD(ER)(電子資料)を刊行
- 1998年 目録分科会「書誌レコードの機能要件(最終報告)」刊行
→ISBDレビューグループはISBD改訂作業再開へ
→目録分科会はISBDレビューGに、ISBDsとFRBRとの整合性求める(基本レベルの全国書誌の要件とISBDとの一致)
- 2002年 ISBD(S)を改訂し、ISBD(CR)(継続資料)を刊行
逐次性をもつ電子出版物; AACR2、ISDSとの調和
- 2004年 ISBD(G)2004改訂版
ISBD(CM)、ISBD(ER)はワールドワイドレビューへ
※「統合版」の作業開始により未完に終わる
- 2004年 ISBDエレメントのFRBRへのマッピング

2度目の
全体
レビュー
プロジェクト

2012/5/31

10

4. ISBDの過去(歴史)(2002~2007年)

- ◆ISBDレビューGが設置した3つのグループの活動、ISBD統合へ
- 2002年 「ISBDシリーズ研究グループ(Series Study Group)」設置
シリーズエリア、注記エリアの非一貫性と多義性の解消
- 2003年 「ISBDの将来方向(Future Directions of the ISBDs)研究グループ」設置
 - 統合ISBDの使用と価値の検討
 - ISBD全体の用語と内容の一貫性の向上
- 「ISBD資料表示(Material Designation)研究グループ」設置
 - マルチフォーマットの出版物の取り扱いについて検討
特に、以下の3点を検討
 - ①ISBDとGMD(General material designation=一般資料表示)の複合的な使用
 - ②マルチフォーマットの場合のエレメントの順序
 - ③複合的な版の場合に作成される書誌レコード数

2012/5/31

11

4. ISBDの過去(歴史)(2002~2007年)

- ◆ISBDレビューGが設置した3つのグループの活動、ISBD統合へ
- ※2003年の第1回IME ICC(国際目録規則専門家会議、フランクフルト)の「GMDワーキンググループ」での議論
- GMDは不十分と思われる。なぜなら、資料の内容表示と表現の表示とが混在しており、明確さよりも混乱の度合いが大きい。
- GMDの現在の位置に関しては、タイトル情報の論理的な順序を妨げている。GMDが記録の冒頭にあることは重要である。また、現在のように任意(optional)であるべきではない。

2012/5/31

12

4. ISBDの過去(歴史)(2002~2007年)

◆ISBDレビューGが設置した3つのグループの活動、ISBD統合へ

※2004年のIFLAブエノスアイレス大会では

- ・GMDは目録利用者にとって「early warning device」資料表示Gは、その重要性和優位性に同意。
- ・GMDは、separate, unique ISBD areaである。

※2005年のオスロ大会では、「エリア0」を検討

2012/5/31

13

4. ISBDの過去(歴史)(2002~2007年)

◆ISBDレビューGが設置した3つのグループの活動、ISBD統合へ

・2005年

- ISBDの将来方向研究GにおいてISBD統合への合意
→統合の準備作業へ
→ほかに、
・ISBDの構造の変更、用語の一般化による変更、
・GMDを本タイトルの後ろから別の位置に移動
などが議論された。

- ISBD資料表示研究Gの議論
・GMDの位置について
・内容の識別・明確化・定義
・GMDとエリア3、5、7の名称

2012/5/31

14

2005年オスロ大会におけるMDSGの提案

現在のGMDの任意性・用語・その置かれている位置が、今も障害として認識されている。

書誌レコードの記録のため、Document Type Definition (DTD)を設定し、分離された唯一のハイレベルな組み合わせ(separate, unique, hi-level component) (ISBDエリアに数えられていない)―「内容/キャリア」または「内容/メディア」の表示で、必須(つまり現在のGMDのように任意でない)のエリアの設定を提案する。

2012/5/31

15

4. ISBDの過去(歴史)(2002~2007年)

- ・2006年 「ISBD2006統合版」(=2007「予備統合版」草案)をワールドワイドレビューへ
※GMDの位置と内容などは変更しないまま
- ・2007年 [ISBD予備統合版\(Preliminary consolidated edition\)](#) 刊行

2012/5/31

16

5. ISBDの現在(2007年~)

- ・2007年 ISBD予備統合版刊行

↓
ISBDレビューGが「予備統合版」の更新を決定

- ・2008年 「エリア0」をワールドワイドレビューに付す
エリア0: 内容形式とメディア種別エリア
(Area0: Content Form and Media Type Area)

注: JLA目録委員会の訳では「内容形式と機器タイプエリア」

- ・2009年 [ISBDエリア0](#)をIFLAのWebサイトに公表
・記述の実例集を付した
- ・2011年 [「ISBD統合版」](#)刊行
・[「全体事例集」](#)(Full ISBD Examples)をWebサイトに公表

2012/5/31

17

[翻訳]

ISBD(S):International Standard Bibliographic Description for Serials, 1974
国際標準書誌記述(逐次刊行物用). -- 現代の図書館, 12(4), 1974, p. 141-167

ISBD(M):International Standard Bibliographic Description for Monographic Publications, 1st standard ed., 1974
国際標準書誌記述(単行書用), 標準第1版. -- 現代の図書館, 15(3), 1977, p. 144-177

ISBD(G):General International Standard Bibliographic Description : Annotated Text, 1977
国際標準書誌記述(総合):注解つきテキスト. -- 現代の図書館, 17(3), 1979, p. 139-164

ISBD(PM):International Standard Bibliographic Description for Printed Music, 1980
国際標準書誌記述(印刷楽譜用). -- 現代の図書館, 20(3/4), 1982, p. 227-266

2012/5/31

18